

臨床研究に関する情報公開

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について下記のとおり情報を公開します。

研究結果は学会等で発表される事がありますが、その際も個人を特定する情報は公表しません。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

<研究課題名>

当院における上部消化管異物の検索的研究

<研究機関・究責任者名>

日本大学医学部附属板橋病院 消化器肝臓内科 (研究責任者) 岩本 真帆

<研究期間>

承認日 ~ 西暦 2019 年 12 月 31 日

<研究の目的と意義>

異物誤飲は日常診療においてしばしば遭遇する病態です。硬貨、電池、遊具、PTP、魚骨、義歯、食塊、歯科治療器具、爪楊枝などさまざまな種類の異物が誤飲の対象となります。上部消化管異物の診断治療には、種類や症状、誤飲の状況などの詳細な問診とともに、他科との連携、X線検査やCT検査による部位の推定、合併症の確認を行うことが大切です。その上で、適切な器具や手技を用いて安全に異物除去を施行する必要があります。また、異物誤飲から経過時間が長いほど、合併症率の発生が上がるという報告があり、適切な時期に受診することも必要かと考えられます。当院では、過去に多くの異物治療を経験しています。今回は上部消化管異物と診断され、上部消化管内視鏡検査やレントゲン装置を用いて異物除去治療を要した患者様について、診療録をもとに、背景、経過、治療法などの検討を行う予定です。この研究の結果を、より適切で、より安全な今後の異物治療につなげていきたいと考えています。

<対象となる患者さん>

2001年1月～2018年7月までに当院で上部消化管異物と診断された治療を受けられた患者様

<研究の方法>

当院で、上部消化管異物と診断され、上部消化管内視鏡検査やレントゲン（マグネットチューブなど）により異物除去術を受けられた患者様で、診療録の確認ができた患者様の背景、症状、レントゲンやCT検査、耳鼻科受診の有無、異物の種類、治療までに要した時間や、内視鏡所見、異物除去術を要した場合の具体的な方法等を解析致します。既報の報告と合わせ矛盾点、合致点なども検討致します。

【研究のスケジュール】

検索的研究であり、上記内容となります。

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部附属板橋病院 (東京都板橋区大谷口上町 30-1)

消化器肝臓内科

氏名：岩本 真帆

電話：03-3972-8111

内線：(医局) 2424

(PHS) 8085